

## 1. 2017年のデータから推察される子ども食堂に参加する人数と広報の関係について — 日進絆食堂を事例に —

齊藤新

今日本では、子どもの貧困や孤食が問題になっている。そしてその問題の対策として全国で子ども食堂が設立されるようになった。特に2016年から2017年にかけては全国各地で盛んに新しい子ども食堂がオープンされるようになり、まさしく子ども食堂ブームの到来といっても良いだろう。しかし子ども食堂を継続させるには多くの問題を乗り越えなければならず、特にどの食堂も抱えているのが安定しない食堂への参加人数だろう。そこで私が今年ボランティアとして参加させていただいた日進絆子ども食堂の一年間の参加者のデータと、広報や食堂のプログラムをもとに子ども食堂の参加者の数には何が影響を及ぼすのかを考察していく。

### 1. 絆食堂の立ち上がりと運営について

あいち子ども食堂ネットワーク共同代表の山崎正信さんが福社会館のボランティアを以前行われていた際、お昼に帰らない子どもに声をかけると家に帰っても食べるご飯が無く、一人でご飯を食べなければいけない子どもが多かったため、同じ境遇の子ども達の居場所を作る為に子ども食堂の立ち上げを決意された。

絆食堂では本開催前に3回のプレオープンや、講師の方を招いての講義、ディスカッションも行われている。下記のURLは講義の様態を収めたビデオのリンクである。

<https://www.youtube.com/watch?v=mrPSjVOZeaQ>

開催場所は日進市役所横のにぎわい会館で営業の一環として行うとの条件で開催している。開催当初は山崎さんが食堂の代表を務めていたが、山崎さんがあいち子ども食堂ネットワークの共同代表になることで負担が増えることを懸念して現代表である、樽見千春が代表となった。

資金としては、代表である山崎さんが代表を務めるNPO法人「NPO絆」からの資金提供や2017年3月31日付けにいただいた株式会社マルト水谷のカンパイチャリティキャンペーンの179,512円に加え食堂開催の際の売上金をもとに運営している。

NPO絆とは中高年、定年退職者のそれぞれの知識経験、人脈などの力を借りて、イベント、セミナー交流会、飲食の提供、高齢者や障がい者の暮らしのサポート、住居・住環境の相談支援を行っているNPOである。

カンパイチャリティキャンペーンとはカンパイチャリティあいち推進委員会（公益財団法人あいちコミュニティコミュニティ財団・株式会社マルト水谷）が主催した2016年12月1日～2017年3月31日に行われたキャンペーン期間中に参加店舗で「生ビール」を注文すると、1リットルにつき1円が「あいち・なごや子どもとつくる基金」などへ寄付され、「子どもの貧困」など、深刻化する子どもの問題解決に取り組む団体を応援するキャンペーンである。

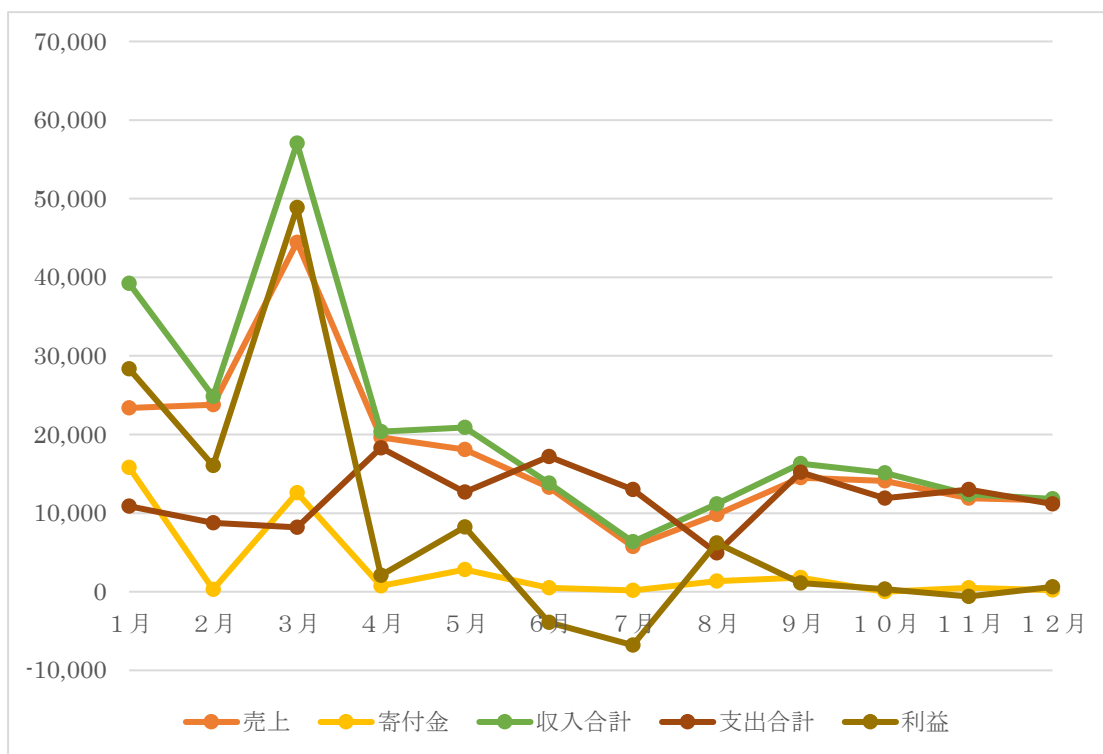


図1 日進絆食堂年間収支

## 2.開催日時、食事メニューとプログラム

※毎回日進ファミボドクラブを中心とする日進市内のボードゲームクラブの方によるボードゲームの提供有り。

※食事のメニューは毎回の子ども食堂の後のミーティングで季節を考慮し決めている。

※レクリエーションは愛知学院大学4年生の松島さんや渡部さんが中心となり行っている。

日時	メニュー(白米は割愛)	レクリエーション他プログラム
1月8日	カレーライス 黒豆、大根サラダ 野菜スープ	コンサート (AZUL) ビンゴゲーム、折り紙 お絵描き、トランプ
2月12日	煮込みハンバーグ 野菜サラダ、スープ、マカロニサラダ 蜜柑	三味線演奏 (杉山大祐) 風船バレー、折り紙 お絵描き、トランプ
3月12日	鶏の唐揚げ グリーンサラダ、味噌汁、甘夏、苺	音楽 (石川宏子) お絵描き、トランプ
4月9日	ちらし寿司、手羽元煮 お吸い物、野菜サラダ 甘夏、苺、シフォンケーキ	コンサート (アンサンブルフォレスト) 牛乳パックランタンづくり
5月14日	親子丼 野菜サラダ、赤飯、味噌汁 蜜柑	子ども食堂の歌合唱 (山本康弘) うちわづくり 家族相談、スマホ相談、整膚
6月11日	とんかつ 野菜サラダ、マカロニサラダ、味噌汁	子ども食堂の歌合唱 (AMI) イラストコンテスト 家族相談、スマホ相談、整膚
7月9日	揚げ野菜付きカレーライス 浅漬けサラダ バナナ	ボードゲーム
8月13日	揚げ野菜付きカレーライス 胡瓜のサラダ、トウモロコシ、トマト	折り紙 家族相談受付
9月10日	ハンバーグ ツナピーマン、揚げカボチャ、ポテト サラダ、甘夏	小麦粉粘土遊び
10月8日	鶏の唐揚げ 芋きんとん、野菜マカロニサラダ、味噌汁、蜜柑	コンサート (ブレンブレンド) お面づくり
11月12日	チキンクリームシチュー マカロニサラダ、柿	電気クラゲづくり 折り紙
12月10日	おでん (大根、コンニャク、ちくわ、卵、ウインナー) 大根の葉のジャコ炒め、味噌汁、味噌だれ	巨大かるたづくり
2018年 1月14日	ハンバーグカレー 黒豆、ポタージュスープ、オレンジ	巨大かるた取り ビンゴ大会

### 3.参加人数の推移

開催月	子ども人数	大人人数	ボランティア人数	合計
1月	23	42+12（招待）	30	107
2月	21	38	23	82
3月	20	60	21	101
4月	16	36	28	80
5月	12	41	28	81
6月	13	23	30	66
7月	6	10	28	44
8月	24	18	23	65
9月	29	27（内保護者 11）	24	80
10月	18	25（内保護者 4、招待 2）	25	65
11月	30	38(内保護者 15)	23	91
12月	16	22(内保護者 7)	23	62
H30 1月	47	42	31	120

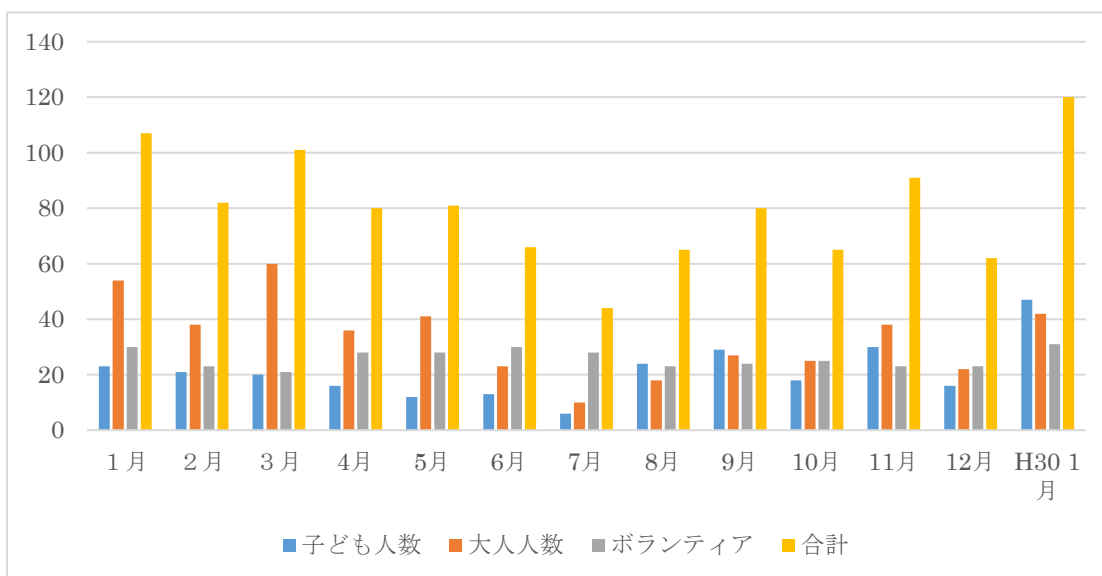


図2 絆食堂参加者数の推移 (H29年1月～H30年1月)

### 4.参加者の詳細

詳細を得ることは出来なかったが、日進市内を中心に食堂の近くだけでなく市内の広い範囲から利用している方が多く、年齢層はまばらで有るが比較的子どもと高齢の方の参加が多く老若男女問わず利用している。開催初期は関係者の子どもが殆どであったが、6月頃からリピーターとして来てくれている子どもも増え始め1月現在では子ども食堂で出会った子ども同士で遊ぶ様子も見られる。また、開催場所であるにぎわい食堂を他の曜日

に利用されている方で来ている人もいる。

## 5.日進絆食堂の抱える問題

(1)各人の抱える子ども食堂の目指す形が合致していない。

食堂の運営側が問題だと思う点と大学生のボランティア側が問題だと思っている点はそれぞれ存在しているが、特に大学生側から食堂側に問題点を指摘することに気後れや遠慮をしてしまい、問題の解決が先延ばしになってしまっている。また、子ども食堂の形については正解が無いからこそ、絆食堂の目指すべき形にはボランティアに各々のイメージが有るが、そのイメージを共有する場が少ない為、絆食堂が目指すべき形が明確にならないままである。代表者がイメージの統一を図れば解決する問題かもしれないが、絆食堂は参加者の満足だけでなく参加したボランティアにも満足をして貰える食堂であってほしいという山崎さんや樽見さんの想いが有り、ボランティアの人たちとともに作り上げる食堂で有りたいという意志も持たれている。

(2)室内レクリエーションの難しさ

現在絆食堂では一階で食堂、二階で大学生によるレクリエーションが行われているが、大人と大学生の役割分担が出来ており、参加者の様子を見ていても望ましい形だと感じる。しかし、会場が狭く近くに運動できるスペースも無いため行えるレクリエーションにも限界が有り、子ども達が「子ども食堂」を楽しみにしてくれるような大掛かりなレクリエーションを行えずにいる。

また、絆食堂は食事の時間が細かく決まっておらず、一般の食堂と同じようにいつ来ても帰っても良いというシステムなので時間や人数を定めたうえでのレクリエーションが行いづらいという問題が有る。また、食堂開催当初は愛知学院のボランティア大学生が中心になり様々なレクリエーションを行っていたが、子どもの反応が予想していたよりも芳しくなく、様々なレクリエーションを企画したところで自己満足なのではないかと感じることも有った。

(3)食事の提供数の限界

現在絆食堂では、会場であるにぎわい交流館の最大利用人数が 50 名であることから一日の最大の食事提供数を 50 食としているがその人数を超過する場合は今後増えて来ることが予想される。

また、キッチンの人数が少し不足している。キッチンの人数については、大学生ボランティアが入れば一番良いが衛生上の問題も有り、腸内検査をしているスタッフしか入れず尚且つ腸内検査をしているスタッフが数人しかいない為、皿洗いのお手伝いも出来ないといった状態になっている。

## 6.問題の解決に向けて

毎月子ども食堂の開催の後にミーティングを開き、樽見さん、食堂側関係者とボランティアの意見のすり合わせを行っている。また、利用者の方へのアンケートも参考にしながら次回までに大学生に仕事を任せていただけることでやりがいや、イメージの具現化がしやすい状況にあると感じる。

愛知学院の方々が一年間試行錯誤したうえで好感触だったのは、2月に行った体を動かした風船バレーと12月～1月に行ったカルタを作って翌月にカルタ取りをするという内容を繰り返したプログラムの二つである。

また、自分が参加する中で子ども達の様子を見て一番魅力的に映っているように見えたのはファミボ日進さんが持ってきているボードゲームである。そもそもボードゲーム自体が老若男女親しみやすく、子ども食堂に向いているというものも有るが、一番大切なのは1年間を通して毎回子ども食堂に存在したということである。子ども食堂には常に変わらない大切さというものが有ると思うが、それは食堂の人やボランティアの人達といった人間関係だけでなく、子ども食堂に行ったら「いつも〇〇が出来る」といった要素も必要だと感じた。実際ボードゲームが回を重ねると人気が出始めたし、いつものボランティアといつものボードゲームをやる場面というのは多く見受けられた。

提供数に関しては上限を変えることは厳しいが、H30年1月の一周年記念イベントの時のような参加人数の多さが見込める月は上限を増やすなどの対策をキッチンチームでされている。また食事の提供時間も14時までという規定が会場の方で存在するためその対策も考えている。

## 7.日進絆食堂を支える関係者マップ

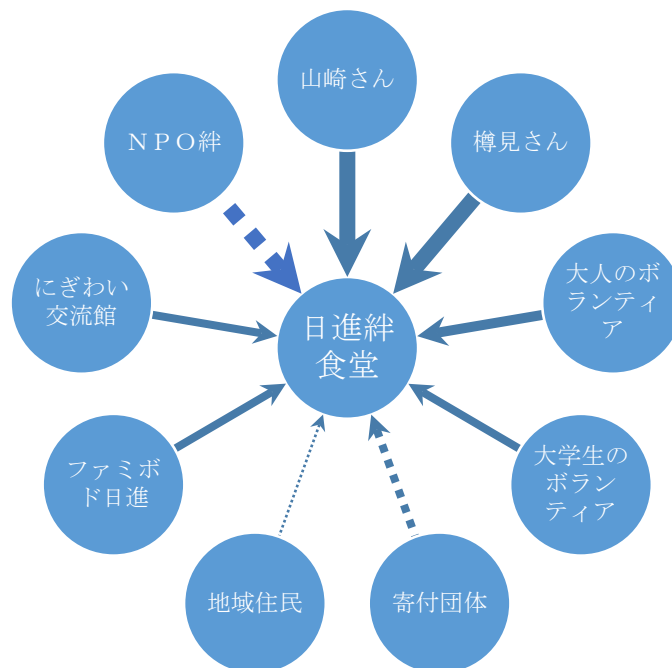


図3 絆食堂の関係者マップ

矢印の太さは繋がり強さを、点線の矢印は金銭的支援や食材の支援の繋がり示している。

絆食堂の立ち上げをされた山崎さんを中心に樽見さん、大人のボランティアの方々が食堂の運営の根幹を支えており、大学生のボランティアやファミボド日進クラブが食堂の開催日のお手伝いをしている。特に愛知学院と食堂の繋がり強く、レクリエーションの企画を任されており子ども食堂関連のイベントを開催するときも欠かさずお手伝いしている。金銭的支援はNPO絆を中心に受けており、不定期的では有るが地域住民の方から野菜などの食材の支援を受けることも有る。また、絆食堂は様々な大学がボランティアとして関わったことのある食堂であり、愛知学院大学、中京大学、名古屋学芸大学、日本福祉大学、東海学院大学などがボランティアとして関わっている。また、山崎さんの豊かな空間には音楽が必要であるという考えのもと、様々な音楽家の方との関りも持っている。絆食堂の特徴として食堂の開催をするごとに新規のボランティアの人が参加をしてくれる強みが有る反面、継続してボランティアに来てくれる人が少ないのでボランティアに継続してお手伝いをして貰うことが今後の課題となるかもしれない。

## 8. 広報についての年表

絆食堂の情報が掲載された広報雑誌の発刊日、絆食堂の広報を行ったイベントの開催日、絆食堂や子ども食堂を特集したTVの放送日、それぞれの内容についてまとめた。(日進市内の住民に影響を及ぼしそうなものに限る。また広報誌については絆食堂に保管してあるものと、探すことが出来たものに限る。)

### 5月

(1)日進市内の回覧板にチラシを掲載。(時間、開催場所、値段、連絡先を記載)

### 6月

(2)21日～30日 にぎわい交流館にて「イラストコンテスト」開催(6月20日に展示の設置、30日に搬出。開票集計)

(3)24日 あいち子ども食堂ネットワーク創立。

### 7月

(4)日進市内の回覧板にチラシを掲載。(内容は以前と同じ)

(5)CC ネットで日進絆子ども食堂のインタビューの様子を放映

(6)8日 にっしんわいわいフェスティバルで「子ども縁日」として参加。日進市民会館で入り口前とエントランスにて縁日出店を展開。飲料水・綿菓子・ポップコーンの販売、糸引きくじ、水風船すくい、シャボン玉作り、水遊びなどを日進絆子ども食堂として開催。協力団体様による、たねダンゴづくり、ミニ黒板作り、紙芝居も開催。

(7)22日 日進市市民自治活動推進補助金事業「夏休み自由研究プロジェクト」第一回

### 8月

(8)1日 「広報日進8月号」創刊 日進市内の情報誌 絆食堂の開催情報を掲載

(9)2, 3日 日進市西中学校職場体験プログラム2017においてインタビューを受け、子ども食堂に子どもがたくさん来てくれるための案を募った

## 10月

(10)「ぐるぐる NISSHIN まちミル博覧会 2017」創刊 日進市内の情報誌 11月26日のまちミル博覧会の情報と絆食堂の情報を掲載

(11)27日 中京テレビ毎週金曜夜 19時放送「PS 純金」 日進 VS 長久手特集内で日進絆食堂の様子が2分ほど放映された。

## 11月

(12)19日 にっしん市民まつり内にぎわい交流館まつりにて 日進絆子ども食堂&まちミル博覧会参加プログラムのPR活動

(13)26日 ぐるぐる NISSHIN まちミル博覧会「皆で豚汁を食べてたねダンゴを作ろう！」開催

## 12月

(14)中京ホームニュース

(15)子ども会での宣伝

(16)2日 新聞に掲載(日進絆食堂の開催情報)

(17)5日 「ボラみっけ！」開催 合同説明会のように、ボランティアに興味のある人がボランティアを募集している市民活動団体(NPO)と会って話せるイベント。

(18)22日 「日進南部、東郷地域みっちゃく生活情報誌 Sun+Go club」創刊 日進絆食堂の開催日時、場所、詳細が掲載

(19)25日 日本テレビ毎週月曜夜 19時放送「有吉ゼミ」内八王子リフォームクリスマススペシャルにおいて全国で初めての子ども食堂である、東京都大田区子ども食堂だんだんを特集。内容は子ども食堂のリフォームであったが、子ども食堂の存在意義や貧困だけでなく、孤食の子どもに焦点を当てた話や、子どもの安心できる居場所のひとつである取り上げ方をしていた。出演者のコメントも子ども食堂運営の努力や苦労を考慮しての発言も多く、世間の子ども食堂のイメージと運営側のイメージが合致するきっかけになったのではないか。



## 9.参加者のグラフと年表を比べて

グラフに挿入してある四角は8の年表の広報を示している。

広報誌=青 イベント=黄色、( )付きの数字 TV=白、○付きの数字である。

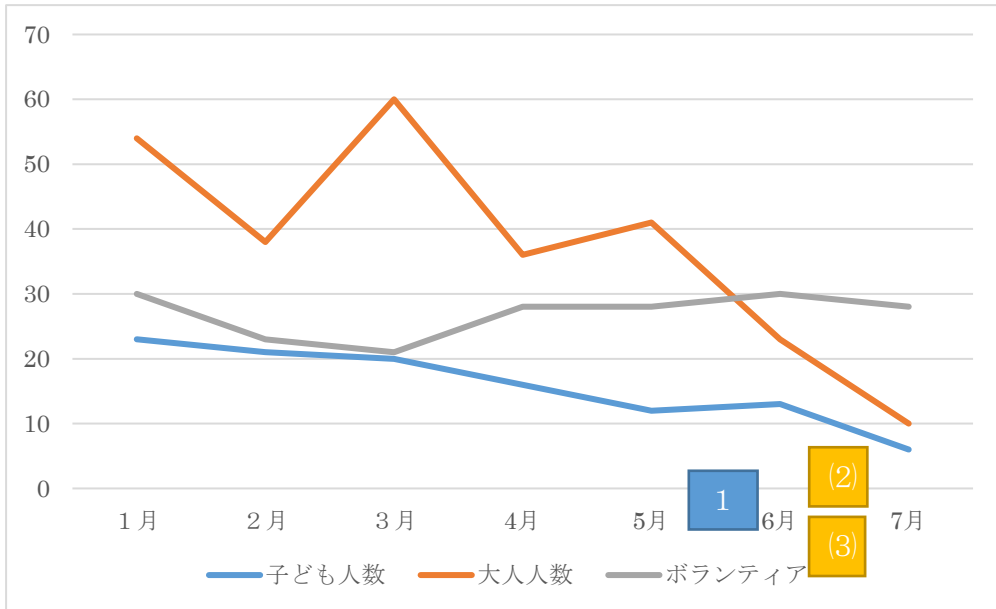


図4 日進絆食堂来場者数と広報のグラフ（1月～7月）

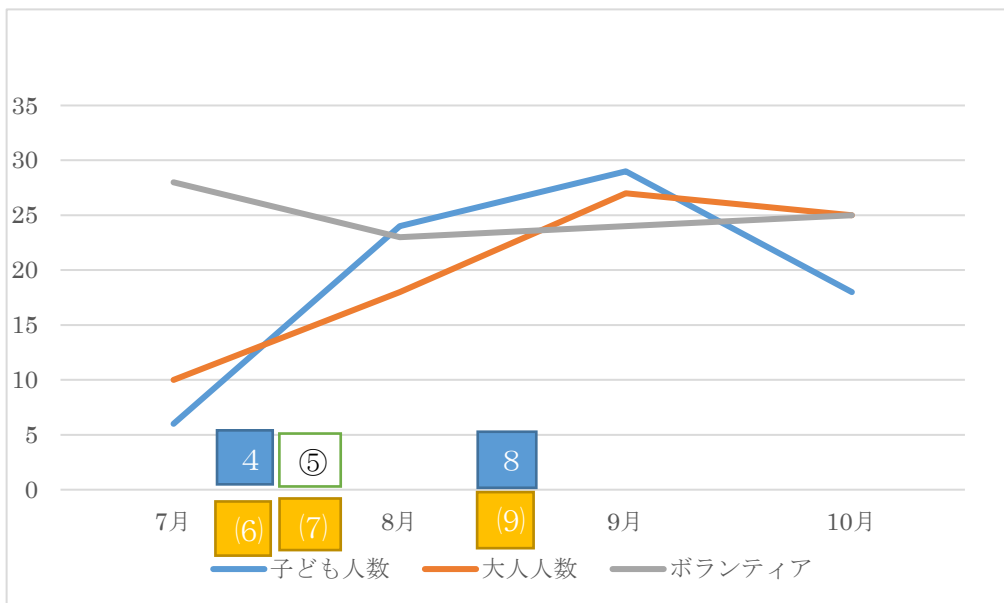


図5 日進絆食堂来場者数と広報のグラフ（7月～10月）

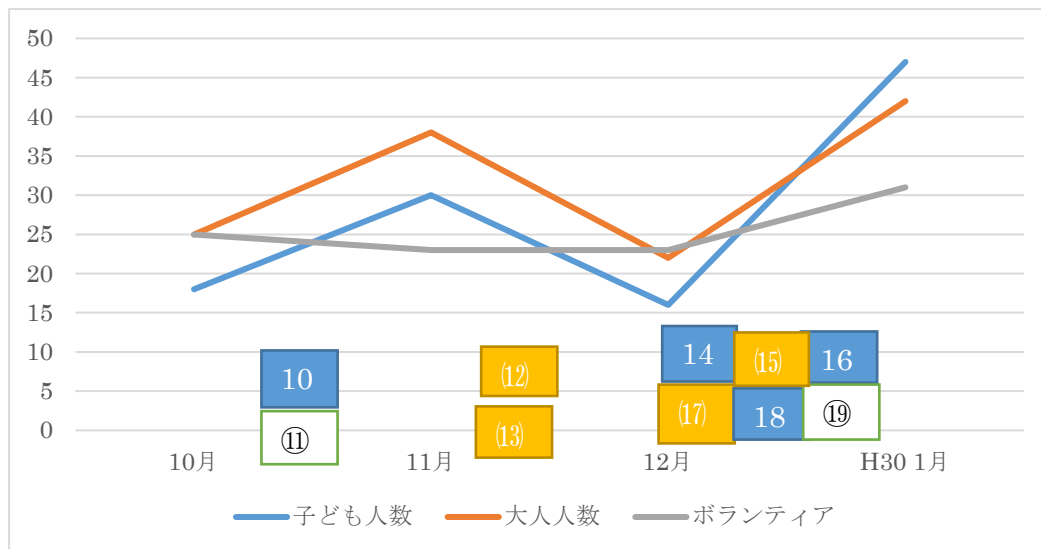


図6 日進絆食堂の参加者数と広報のグラフ（10月～H30年1月）

参加者の増減の要因として挙げられるのは以下の5つである。

- (1) 来場者数の増加が著しく多い月は広報活動が多い。
- (2) TVの放映の後は来場者数が大幅に増加している。
- (3) 広報活動を行った翌月は平均して来場者数が増えているが6～7月と11月～12月のイベントのみの広報を行った翌月は来場者数が減少している。
- (4) 後期で唯一広報活動を行っていない9月～10月は来場者数が下がっている。
- (5) ボランティアの数は広報活動とは関連性が見られない

## 10. 考察

子ども食堂における広報活動は確実に効果が有り、広報に目を触れる人が多いほど（広報の媒体が大きいくほど）その効果は大きい。イベントにおける広報にあまり効果が無い理由については①イベントに来る人はもともと子ども食堂に参加している人が多い。（新規の人が少ない）②先月や子ども食堂の前の週にイベントに参加しているので子ども食堂に参加する意欲が薄れてしまっていることの二つが考えられる。広報とボランティアの関連性は薄いイベントを通じて新しいボランティアが増えたことも有り、一概に関連性がないとは言えない。食事メニューやレクリエーションについては参加者数との関連性は見られなかったが、12月～1月にかけてのカルタ作りからのカルタ取りという繋がりにより、レクリエーションを行うことにより、リピーターとして参加している子どもが多かったように感じた。また後半にかけて全体的な参加者の増加が見られるのは、地道な広報活動により絆食堂が広く認知され始めたということも有るが、前半は開催一か月前からの告知をしていたところを、11月頃からは2～3か月前に開催日程を告知していたため来場者の方も参加しやすくなったのではないかと考えられる。

## 11.まとめ

子ども食堂に関してはまだ歴史が浅いものなので何事に関しても正解は無い。しかし、一年間のデータから広報活動の効果が読み取れたことは今後の広報におけるモチベーションにも繋がる結果となった。レクリエーションや食事メニューに関しては参加者数との直接的関連は見られなかったが、だから蔑ろにするのではなく今後参加者数が増えていく中で子どもたちが満足し、また来たくくなるような食堂を目指すうえで大切にしていかなければならない。ただ広報に関して、子ども食堂は貧困の子どもを含めた全ての子ども達の安心できる居場所を目指し運営しているが、世間では貧困の子どもの為の居場所というイメージもいまだ強く、「有吉ゼミ」のような子ども食堂について深く調べたうえで取り扱ってくれるメディアが有る一方、貧困の子ども向けの安価な食堂としか取り上げないメディアも有る。今後子ども食堂が世間に広まって大きくなっていくうえで運営側の意図と世間のイメージのズレを防ぐことが新しい課題になるだろう。

子ども食堂は貧困の子ども達に食事を与えるというコンセプトのもと生まれ育った場ではあるが、現在では居場所のない子ども達のための場所や、地域住民の居場所の一つとして発展しつつある。しかし、絆食堂にボランティアとして参加してみて運営側の人間関係も大切であることを改めて感じた。特に自分が大学生の立場として絆食堂に参加させていただいて、今まで関わることの無かった愛知学院の学生の方たちと次回の子ども食堂についてミーティングをする程の仲を築けたり、樽見さんや山崎さんとも今後の子ども食堂についてお話をさせていただいたり、毎回お土産をいただいたりと自分の中でも一つの大切なコミュニティとして絆食堂が存在するようになった。また、日進市の子ども達と翌月の子ども食堂で遊ぶ約束や、参加者の方の名刺をいただきお話を聞かせて貰うなど毎月の子ども食堂に楽しく望むことが出来ている。絆食堂の代表である山崎さんと樽見さんは「食堂の参加者とボランティアが両方満足する食堂でありたい」と私が初めて参加させていただいた際に仰っていたが、この言葉が子ども食堂を運営していくうえで大切なことなのだと改めて感じた。大学生のボランティアとして研究の一環として参加する目的が有ることは仕方ないことだが、真に子ども食堂が子ども達の居場所となるためには「子ども達のため」「食堂のため」というボランティア意識や、子ども食堂のお手伝いにくることに充実感や満足感を得ることが出来るようになること、研究を超えた確かな関係を築くことが大学生ボランティアには必要である。